



さはら みつ やす 充恭

Let's go to the next 100 years !

2021年9月度活動報告

佐原充恭後援会 〒448-8651 愛知県刈谷市豊田町1丁目1番地 トヨタ紡織労組内

1) 刈谷市のコロナワクチンの接種につきまして(9/30時点の情報)。

出典:刈谷市HP

対象者	種別	接種場所	ワクチン種別	備考
接種日当日に12歳以上の市民で接種を希望される方(アナフィラキシー等の既往歴のある方は除く)	個別	市内指定医療機関	ファイザー製ワクチン (3週間間隔で2回接種)	市内実施医療機関に直接電話等でお問い合わせください。
	集団	市保健センター	ファイザー製ワクチン (3週間間隔で2回接種)	刈谷市新型コロナワクチンコールセンター(☎0570-047-055)にて電話予約 もしくは 刈谷市集団接種予約サイトでウェブ予約
		刈谷市役所	ファイザー製ワクチン (3週間間隔で2回接種)	
		藤田医科大学病院 (豊明市)	武田/モデルナ社製 ワクチン (4週間間隔で2回接種)	
		職域接種 (各企業、団体等)	武田/モデルナ社製 ワクチン (4週間間隔で2回接種)	
妊婦および妊婦の夫 又はパートナーの優先接種	集団	市保健センター	ファイザー製ワクチン (3週間間隔で2回接種)	9/21~刈谷市新型コロナワクチンコールセンター(☎0570-047-055)にて電話予約
8月以降に12歳になる方には、年齢に達していない方への誤接種を防ぐため、対象年齢に達した翌月にクーポン券を発送します。11歳以下の方は9/30時点では接種の対象になっておりません。				
愛知県は藤田医科大学他7か所で妊産婦及び夫またはパートナーに対し、優先的接種を行っています。詳しくは下記HPをご参照下さい。				
愛知県は希望者(原則40歳以上で、ファイザー社製・モデルナ社製ワクチンを接種していない方)へのアストラゼネカ社製ワクチンの接種を行っています。詳しくは下記HPをご参照下さい。				

接種場所や予約、申請に関する詳細は、刈谷市HP「新型コロナワクチン接種について」をご参照頂き、**必ず最新情報をご確認下さい↓**。

https://www.city.kariya.lg.jp/kurashi/kenkoiryo/info_kenko/1007523.html

お電話でのお問合せは新型コロナワクチンコールセンター(TEL 0570-047-055)まで。

受付時間は月~土 午前9時から午後6時です。日曜、祝日、年末年始は休止します。



2) 9月定例会で一般質問をしました。



← 質問映像はこちらか

1. 市独自の「生涯現役推進計画」策定を提言。

☆さはらの提言『本年の高年齢者雇用安定法改正により、事業者に65才から70才までの就業機会を確保する努力義務が課せられ、**65才以上の就労人口の増加が予測される**。刈谷市も従来の取り組みに加え、**高齢者の意識や価値観にあわせて様々な活動ができる受け皿**を更に創出していく必要がある。国や先進市の取り組みを参考に、**市独自の「生涯現役推進計画」**を策定し、刈谷の地域特性を活かした**生涯現役のまちづくり**を推進すべき。』



希望者がいくつになっても活動できる生涯現役のまちづくりは、健康寿命の延伸や、社会保障費の削減に寄与するとともに、全世代の市民が、互いを尊重しながら社会を支える取り組みにつながります。



2. 実効性の高い特殊詐欺防止の啓発活動を提言。

☆さはらの提言『市の努力にも関わらず、高齢者を中心に**特殊詐欺被害が再び増加傾向(今年度被害額6件900万円)**にある。対策として例えば、高齢者によく読まれ、6万世帯以上に配布される**市民だより**に、定期的に**特殊詐欺防止の啓発カード**を折り込み、電話機のそばに置いたり貼ってもらうようにすれば、**効果的な啓発活動**になりうるのではないか。』



市民だよりに
折り込み



詐欺電話やメール、はがき等は、多様かつ巧妙に発信され続けています。わかりやすい啓発活動を広範囲に行う事が重要です。

3. 福祉避難所への直接避難の促進、機能の充実を提言。

☆さはらの提言『大規模災害発生時、市内に12か所ある**福祉避難所(高齢者や障がいのある方に配慮した避難所)**に、**対象者が直接避難できる体制づくり**を速やかに構築頂きたい。また、福祉避難所の**資機材や機能の充実**を通じ、**必要十分なケアが受けられる環境づくり**を早急に進めて頂きたい。』



福祉避難所のひとつである
心身障がい者福祉会館



この質問は新聞にも掲載されました。コロナ禍と大規模自然災害発生の重複発生が懸念される今、福祉避難所の機能充実はまったなしの課題です。

4. コロナ禍に対応しつつ、アフターコロナにも有効な保育業務支援策を提言。

☆さはらの提言『長期に渡るマスク着用は、園児間や保育者とのコミュニケーションに、**表情が読み取りにくい等のネガティブな影響**を与えているが、その状況を、相手の気持ちをしっかり読み取る力を養うなど、**ポジティブな育ち**につなげて欲しい。

また、**コロナ感染が子ども達にも拡大し、保護者や保育者の精神的・心理的負担は増幅**している。感染対策強化として、小中学校同様、幼稚園や保育園にも**専門の消毒スタッフ**を配置したり、**非対面・非接触のICTツール(保育アプリや昼寝見守りA Iなど)**を導入すれば、そうした負担を軽減できるはず。』



保育の持ち味である直接的なふれあいやコミュニケーションは大切にしつつ、ICTをうまく併用すれば、感染対策強化、保育サービスの質の向上、業務の効率化につながると思います。